

集落営農で地域と農地を守る 担い手不足打破へ行政、JA、農家と連携

稲美町 北山営農組合



左から小山組合長と坂本副組合長

【兵庫】県内最大の小麦産地・稲美町で、北山営農組合は地域と農業を守るため、行政やJA、農家と連携して集落営農に取り組んでいる。

同組合は、高齢化や担い手不足が深刻化する中、作業受託を含め35畝で水稲(コシヒカリ)と小麦を栽培。水稲は農業の使用量を抑えた稲美ブランド米「万葉の香」としてJAから販売され、町内の小・中学校の給食にも活用されている。

小麦はペットボトルの「ふぁーみん麦茶」としてJAで商品化され、大手飲料メーカーにも小麦を出荷している。

組合設立から37年が経過し

て、すっかり地域に定着。営農が困難になった農地情報が寄せられ、耕作放棄地や遊休農地の発生を防止している。

小山章博組合長(66)と坂本英正副組合長(71)は、農家の経済的負担を軽減するため、年に1回しか使用しないコンバインなどは「個人所有の農機」が壊れたら買わないよう農家に呼びかけ、組合で作業を受託している。

さらに、給食用コシヒカリは3年前から「無農業の実証実験」も行うなど消費者目線に立った工夫もしている。

農業委員会の会長も務める坂本副組合長は「行政やJA、農家とも連携し、地域の農地を守っていきたい」と語り、小山組合長は「防除はドローンを活用している。スマート農業を推進して、さらに省力化を図りたい」と今後の抱負を語った。(山口昭彦)

農地担い手公募制度スタート

50㎡以上の農地を登録 集落の担い手確保を応援

舞鶴市 農業委員会



地区別に開催した農事組合長説明会(2月10日)

【京都】各集落の農事組合が農業委員会に「50㎡以上の一団の農地」を登録し、地区外から担い手を確保する「農地担い手公募制度」が舞鶴市でスタートした。

3月から9月まで各農事組合が農地を登録し、10、11月に市内の規模拡大をめざす農業者や就農希望者、他業種からの参入希望者を公募して農業委員会がマッチングする。

応募した「担い手候補」と農事組合が面談し、営農計画や地域活動への協力意思を確認。集落の関係者が「信頼できる」と判断した担い手を選定した後、市が農地中間管理事業で貸借を仲介

【大阪】「自分が毎日でも飲みたいと思えるワインを造ることが目標」と話すのは、羽曳野市でワイン醸造用ブドウ約1畝と、多品目の果樹約1畝を栽培管理する新畑貴之さん(40)。

大阪府立農業大学校での研修を経て昨年4月に就農した。

現在は「飲食店を通して都市部の人に農業へ興味を持ってもらいたい」との思いから、生産した



「料理人の経験を生かしてワインを造っている」と話す新畑さん

「料理人の経験を生かしてワインを造っている」と話す新畑さん。

「ワインに合わせる果樹を自分で調理して提供している。今後について「まずはワインの品質向上に力を注ぐ」と話す新畑さん。「こんなにおいしいワインが造れるなら自分も挑戦したい」と飲食業に携わりながらワイン造りを志す人が増えれば、高齢化や耕作放棄地の問題解決にもつながるのではないかと期待している。(林佑一郎)

働きたい職場環境づくりめざす

平群町 辻本農園 雇用就農資金を活用

【奈良】「従業員が働き続けたいと思えるような職場環境づくりをめざしながら、高品質なイチゴを追求していきたい」と話すのは、平群町で古

都華などのイチゴを栽培する(株)辻本農園の辻本真史代表取締役社長(40)。

2022年から雇用就農資金を活用している。

辻本代表は、同事業で

実施する社会保険労務士による研修などを受講する中で、賃金台帳や出勤の管理など労務管理の整備にも取り組んでいる。

「地域農業を担う若い人材の育成と確保に向け、今後も積極的に雇用就農資金を活用していきたい」と辻本代表は意気込む。(木村将史)



「奈良のブランドイチゴを全国に広めたい」と笑顔で話す辻本代表

青年 奮闘中

▷40

長浜市 清水多枝子さん



「他市町の事例を取り入れながら地域農業を発展させたい」と語る清水さん、①百匠屋の雑穀米

【滋賀】「担い手不足を解消し、地域の農業を発展させたい」と語るのは、長浜市農業委員1期目の割合を引き上げる目を務める清水多枝子さん(47)。

家族で米、大豆、小豆など約20畝を栽培し、黒豆や小豆、滋賀羽二重糯を使った雑穀米なども販売している。

農業委員就任のきっかけは、同地区の女性委員



清水さんは「高齢化や、山間部、獣害の多い地域の担い手不足が今後の課題。他地区の成功事例を取り入れながら地域農業を守っていきたい」と語る。

が退任する時期に知人から紹介を受けたことだった。同市では女性農業委員の割合を引き上げる目的を掲げており、清水さんは同市内の女性農業者は比較的遊休農地が少なく、新規就農希望者が多く、新規就農希望者が多

「他市町の事例を取り入れながら地域農業を発展させたい」と語る清水さん、②百匠屋の雑穀米

新規就農者サポートに尽力

女性農業者ネットワークで活動

「わかやまはらま農家」園主の遠藤さん(右端)と従業員の方

近畿総局

京都府農業会議

京都市上京区出水通油小路東入 丁子風呂町104-2 府庁西別館内 075-441-3660

滋賀県支局 077-523-2439

大阪府支局 06-6941-2701

兵庫県支局 078-391-1221

奈良県支局 074-222-1101

和歌山県支局 073-432-6114